

---

---

# KITZ

---

---

## 取扱説明書

ねじ込み型  
バタフライ弁

この度は、弊社製品をご購入いただき、ありがとうございます。

弊社製品を、長期間正しくご使用いただくために、施工・使用される前に、必ず本製品の取扱いを規定する本取扱説明書を最後までお読みください。また、お読みいただいた後は、本製品を取扱われる方がいつでも見ることのできる場所に、必ず保管してください。

本取扱説明書は、手動操作式ねじ込み型バタフライ弁に適用します。  
自動操作式弁の自動操作機は、各自動操作機の取扱説明書に従ってください。

## 安全上のご注意

製品をより安全にご活用いただくために、必ず安全上の注意事項を最後までお読みの上、正しくご使用ください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく使用いただき、使用に際しての人的危害や物的損害を未然に防止するためのものです。

また、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するため、本取扱説明書では想定される被害の内容を【警告】と【注意】に区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



**警告**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

また、お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

(下記は絵表示の例です)



この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

## お願い

本取扱説明書は、バルブの運搬・保管、配管取付、操作・運転、保守をご担当になる方々に、バルブの正しい扱い方をご習得頂くための説明書です。

運搬・保管、配管取付、操作・運転、保守作業に入られる前に、必ずこの取扱説明書をご一読くださるようお願い致します。

本取扱説明書は、バルブの運搬・保管、配管取付、操作・運転、保守について、想定される全ての状態を説明し尽くしていません。もし、本取扱説明書について不明な点がございましたら、最寄りの(株)キッツ支社/支店または営業所までお問合せをお願いします。

本取扱説明書で明示してあります、操作・保守・点検上の基準値・制限値は、バルブの保守管理を考慮して定めたものです。基準値・制限値を外れない範囲でご使用ください。

本取扱説明書に使用しました、ご説明用の図面類は基本的なことだけを示したものです。該当する製品の納入品図を参照してください。

※ 本取扱説明書の内容は予告なく変更する場合があります。

図書番号: KJ-2016-03

バルブの故障・補修等のご連絡の際は、以下の項目をご確認の上、ご購入店が最寄りの弊社営業所にご連絡ください。

- 購入・設置年月 ●購入店名 ●製品名(製品記号・口径) ●流体の種類・圧力・温度
- 使用頻度・操作条件 ●配管部環境 ●故障・補修部要請の詳細
- 会社名及び設置場所の住所・電話・担当部署・氏名

本社 〒105-7305 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング

### 国内営業本部

#### ■北海道支店

北海道営業所 TEL. (011)708-6666

#### ■東北支店

東北営業所 TEL. (022)224-5335

#### ■北関東支店

北関東営業所 TEL. (048)651-5260

新潟営業所 TEL. (025)243-3122

#### ■東京支社

東京第一営業所 TEL. (03)5568-9220

東京第二営業所 TEL. (03)5568-9220

千葉営業所 TEL. (043)299-1706

横浜営業所 TEL. (045)253-1095

#### ■中部支社

名古屋第一営業所 TEL. (052)204-1061

名古屋第二営業所 TEL. (052)204-1062

東海営業所 TEL. (050)3649-3002

北陸営業所 TEL. (076)492-4685

甲信営業所 TEL. (0266)71-1441

#### ■大阪支社

大阪第一営業所 TEL. (06)6541-1178

大阪第二営業所 TEL. (06)6533-1715

#### ■中国支店

広島営業所 TEL. (082)248-5903

岡山営業所 TEL. (086)226-1607

#### ■九州支店

九州営業所 TEL. (092)431-7877

#### ■給装営業部

給装第一営業所 TEL. (03)5568-9222

#### ■機械装置営業部

機械装置第一営業所 TEL. (03)5568-9221

#### プロジェクト統括部

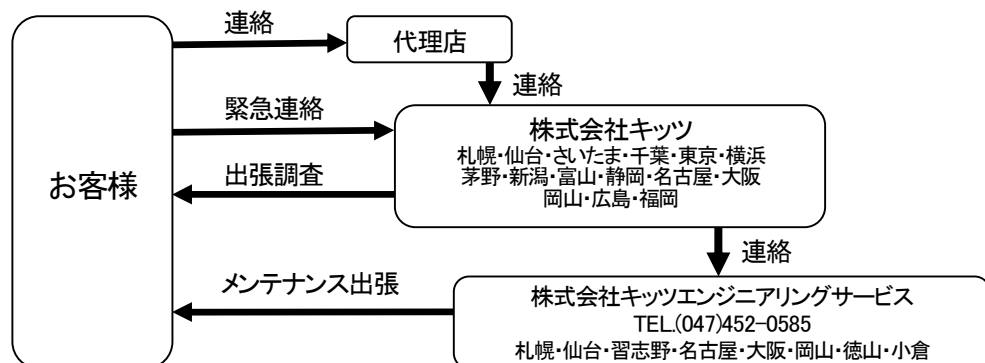
#### ■プロジェクト営業部

プロジェクト第一営業所 TEL. (03)5568-9240

プロジェクト第二営業所 TEL. (06)7636-1060

調節弁営業所 TEL. (03)5568-9241

### KITZ のサービス体制



## 目 次

	頁
第 I 編 構造と機能 .....	1
第 II 編 操作機 .....	5
第 III 編 運搬・保管 .....	7
第 IV 編 配管取付 .....	10
第 V 編 操作・運転 .....	15
第 VI 編 定期点検 .....	19
第 VII 編 分解・組立 .....	23

## 第 I 編 構造と機能

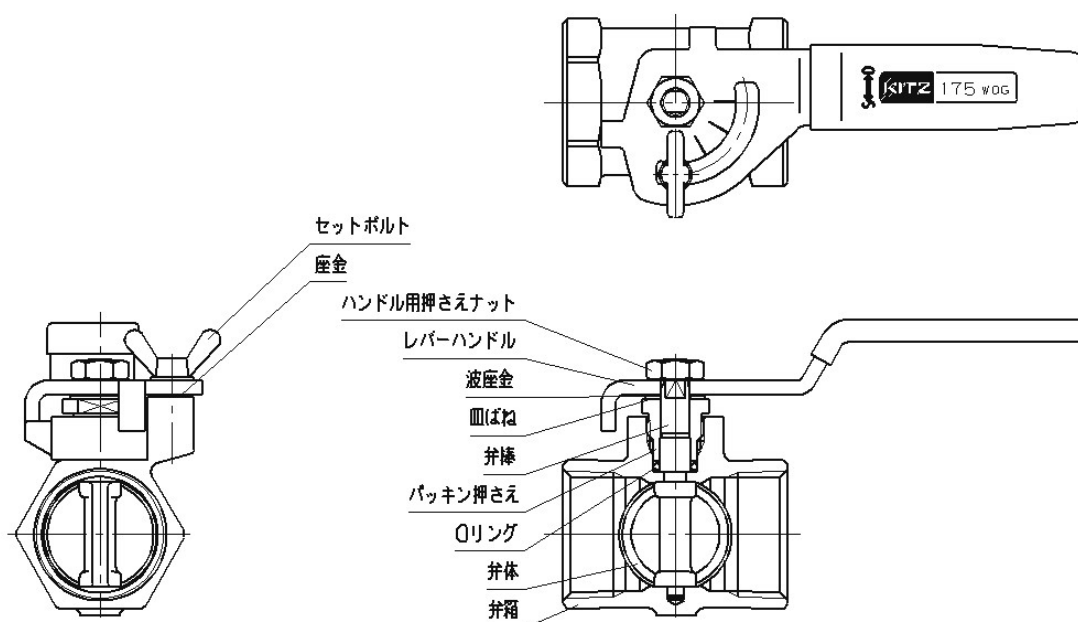
## 第 I 編 構造と機能

### 1. 適用範囲

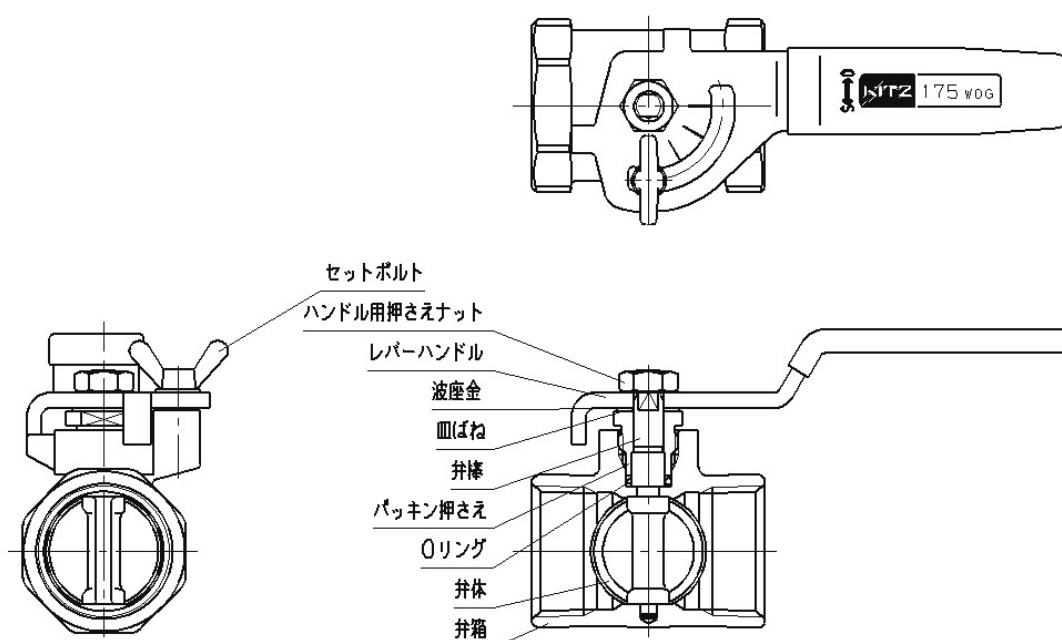
この取扱説明書は、ねじ込み形バタフライバルブに適用します。

### 2. 構造

#### 2.1 ステンレス鋼製ねじ込み形バタフライバルブ(製品記号:UV)



#### 2.2 黄銅製ねじ込み形バタフライバルブ(製品記号:FV)



## 第 I 編 構造と機能

### 3. 特長

- 3.1 完全なフルポート構造で、バタフライバルブ内に流体が残留しません。
- 3.2 管接続が容易なねじ込み形ですので、広範囲な分野の小口径配管ラインにご採用いただけます。
- 3.3 シートは弾性に富む W-NBR を採用、シール性が極めて高く、空気・ガスなど高いシール性が要求される流体ラインに適します。
- 3.4 中間開度で固定できるバルancingストップ機構付きで、流量変動を防止し、しかも開度目盛りにより、安定した流量コントロールが可能です。

## 第 I 編 構造と機能

### 4. 仕様

4.1 最高使用圧力.....	1.21 MPa (12.3 kgf/cm <sup>2</sup> )
4.2 使用流体温度範囲.....	0° C ~ +70° C ※
4.3 弁箱耐圧試験(水圧) .....	1.82 MPa (18.5 kgf/cm <sup>2</sup> )
4.4 弁座漏れ試験(空圧) .....	0.59 MPa (6 kgf/cm <sup>2</sup> )
4.5 接続形式.....	ねじ込み形(JIS B 0203)

※ 流体は凍結なきこと。範囲外で使用する場合は、別途対応。

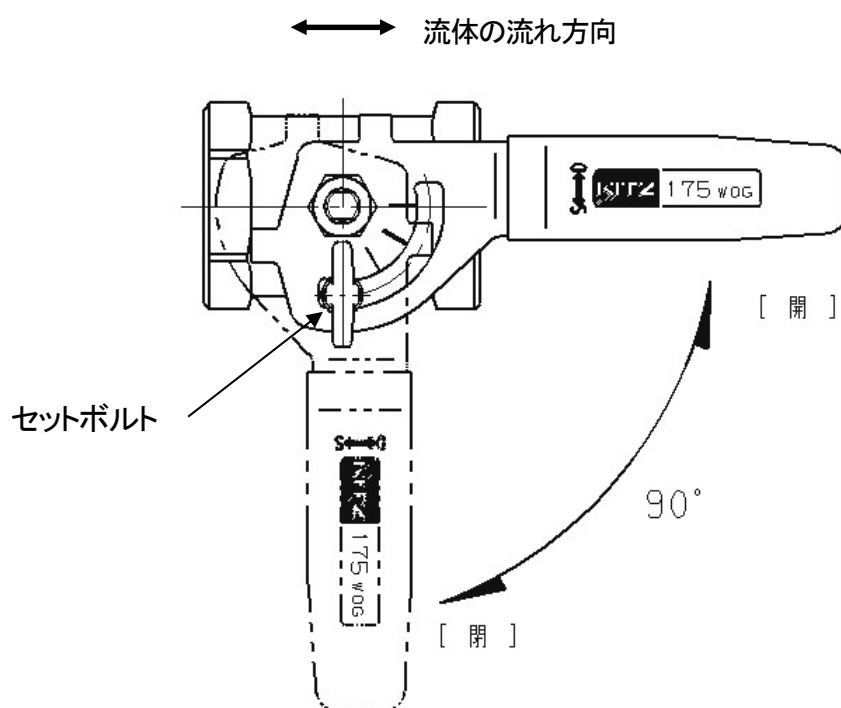


## 第 II 編 操作機

## 第Ⅱ編 操作機

### 1. レバーハンドル式

- 1.1 バルブに直接レバーハンドルが取付いている構造です。
- 1.2 セットボルトを締めるとハンドルが固定され、緩めるとハンドル操作ができる構造です。
- 1.3 レバーハンドルを時計回りに 90° 回して閉、反時計回りに 90° 回して開となります。  
また、中間開度にも設定できます。





## 第 III 編 運搬・保管

## 第三編 運搬・保管

### 1. 運搬

#### 1.1 運搬時の注意事項

 <b>注意</b>	
	● 段ボール箱梱包の場合、湿気等で箱の強度が低下し、梱包が壊れて製品を損傷することがありますので、十分注意をしてください。



#### 1.2 運搬について

- 1.2.1 バルブの移動や配管施工される現場までの運搬は、納入された梱包・荷姿状態を維持してください。
- 1.2.2 バルブを投げ出したり、落下・引きずり・転倒等の衝撃を与えないでください。

## 第Ⅲ編 運搬・保管

### 2. 保管

#### 2.1 保管時の注意事項

 <b>注意</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 腐食性ガスの雰囲気中には保管しないでください。ねじ部等から腐食を発生させ、機能を損ないます。</li> <li>● 保管中に製品を落下・転倒・振動させたり、重い荷重を掛けないでください。バルブの機能を損ねる場合があります。</li> <li>● 製品を重ねて保管しないでください。荷崩れにより人身及び製品を損傷させる恐れがあります。</li> </ul>



#### 2.2 保管について



- 2.2.1 バルブは、屋内でゴミや粉塵・湿気が少なく直射日光の当たらない、通気の良い場所に保管してください。
- 2.2.2 バルブは、梱包状態で木枠等の上に保管し、直接地面やコンクリートの上に置かないでください。
- 2.2.3 長期保管する場合は、ラバーシートの変形を防ぐため、ジスクを 10° 程”開”状態にしてください。

## 第 IV 編 配管取付

## 第IV編 配管取付

### 1. 設置に関する注意事項

 <b>警告</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バルブは要部及びシート材料により、使用圧力・流体・温度範囲が限定されます。配管取付される前に必ずバルブの仕様を銘板またはカタログで確認してください。バルブの仕様を外れて使用されると、内・外部漏れ等の事故を発生させる恐れがあります。</li> </ul>

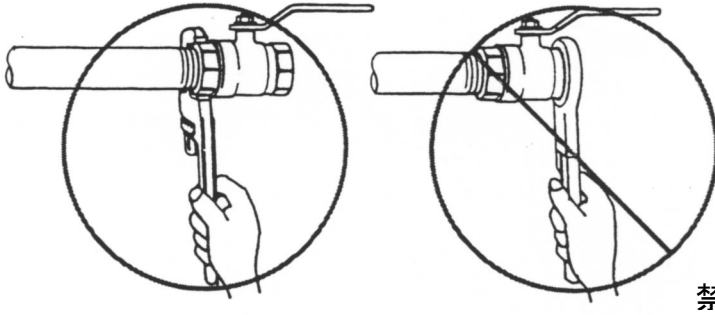
 <b>注意</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バルブの設置場所は、操作及び作業に必要な足場を確保してください。</li> <li>● バルブの設置場所は、操作に必要な照度を確保してください。</li> <li>● 配管がバルブの質量あるいは操作によって過大な荷重を受けないように、必要に応じて配管にサポートを施してください。</li> </ul>

- 1.1 バルブの設置場所は操作性を考慮し、安全かつ容易に操作及び保守が可能で、また、取付け及び取外しができる空間(スペース)が必要になります。
- 1.2 やむを得ず狭い場所にバルブを設置する場合には、操作、点検及び保守に支障のないよう配慮してください。
- 1.3 振動その他の外力によって、その機能が阻害される恐れのある場所への設置はできるだけ避けてください。

## 第IV編 配管取付

### 2 配管取付に関する注意事項

<b>⚠ 警告</b>	
<b>!</b>	● 高所で作業を行なう場合は、下に人が入らない等、安全に充分注意してください。

<b>⚠ 注意</b>	
<b>!</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 配管取付け時にねじ込み部及びシート面は損傷のないよう作業してください。</li> <li>● ねじ込み部のシール材は、温度・流体等に適したものを使用してください。</li> <li>● バルブにパイプレンチを掛けることは絶対に避け、スパナ等の適切な工具を使用してください。</li> <li>● バルブの取付けは、接続する配管に近い側のスパナ掛け部を使用してください。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 配管へのバルブの取付け、取外しはバルブ開度を全閉の手前 10° 前後の状態で行ってください。</li> </ul>



## 第IV編 配管取付

- 2.1 バルブを配管取付けする前に次の項目を確認してください。
  - 2.1.1 使用流体圧力とバルブ仕様が合致している。
  - 2.1.2 接続部の管用ねじが一致している。
  - 2.1.3 バルブ及び配管のねじ部に損傷のないこと。
  - 2.1.4 配管端部のねじは、ねじゲージで検査し、ねじが基準通りであること。
- 2.2 バルブの配管取付け前に、接続ねじ部及び配管内の切削油、切り粉、異物等を十分清掃して除去してください。
- 2.3 バルブを投げ出したり、落下・引きずり・転倒等の衝撃を与えないでください。
- 2.4 配管取付け直前にバルブの保護を取外してください。
- 2.5 配管取付け終了後は、必ず各締め付け部を点検し、緩んでいたら締め直してください。
- 2.6 配管取付け終了後、必ず配管ラインのバルブを全て全開にし、フラッシングにより管内の異物を除去してください。フラッシング中はバルブの開閉操作は絶対に行なわないでください。

## 第IV編 配管取付

### 3. 配管取付

- 3.1 バルブと接続する配管端部にねじが切られていることを確認してください。
- 3.2 配管とバルブの接続ねじ部及び配管内の切削油、切り粉、異物等を洗浄剤、ウエス等を用いて除去してください。
- 3.3 シール材(シールテープ等)を配管のねじ部に塗布してください。
- 3.4 配管とバルブを接続する際は、適切な工具を使用してねじ込んでください。
- 3.5 配管にバルブをねじ込む場合には、過大なトルクを加えないようにしてください。ねじ込みトルク値は下表に示す値の範囲としてください。




呼び径	1/2	3/4	1	1-1/4	1-1/2	2
N-m	20~29	39~49	49~59	59~69	69~78	78~88

- 3.6 試運転は圧力や温度を徐々に上げ、必要に応じて各締め付け部の増締めを実施してください。

## 第 V 編 操作・運転

## 第V編 操作・運転

### 1. バタフライ弁の操作に関する注意事項

 <b>注意</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開閉の際、ハンドルにパイプやハンドル回し等を使用する等、過大なトルクを掛けないでください。</li> <li>● 流体が加圧状態のとき、パッキン押さえ部、配管取付け部を絶対に緩めないでください。</li> <li>● 配管の耐圧テスト(定格以上の圧力テスト)を実施する際は、バルブは全開で行ってください。テストの際、バルブを全閉にして閉止フランジの代用には絶対にしないでください。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハンドル部の操作は必ず手作業で行ってください。</li> <li>● バルブの開閉を行う際は必ずセットボルトを緩めてから操作してください。開度設定後は必ずセットボルトを締め付け、ハンドルを固定してください。(締め付けが不十分の場合、衝撃、振動等の影響により、開度が変わってしまう可能性があります。)</li> <li>● バルブ開度を 30° 以下で使用される場合は、必ず弊社にお問合せください。</li> </ul>

### 2. バルブの開閉

#### 2.1 レバーハンドル式

レバーハンドルを時計回りに 90° 回して閉、反時計回りに 90° 回して開となります。

セットボルトを締めるとハンドルが固定され、緩めるとハンドル操作ができる構造です。

## 第V編 操作・運転



### 3. 運転中の日常点検

使用中のバルブ管理は、日常点検と運転中の検査とによって行われます。日常点検と運転中検査は下記の通りです。

現象	点検箇所	点検方法	処置
流体の外部漏洩	パッキン押さえ部	目視 石鹼水	ねじ部の増締め
	配管接続部	目視 石鹼水	ねじ部の増締め
	バルブ表面	目視 石鹼水	バルブの交換
異音発生	バルブ自身	聴音	配管技術者に連絡・処置
	ボルトの緩み	聴音	ボルトの増締め
	配管の振動	聴音	配管技術者に連絡・処置
ねじ部の緩み	ボルト	目視 手感	ボルトの増締め
シート漏れ	—	—	異物の除去 分解点検 バルブの交換
バルブの作動状況	開閉位置の確認	目視	指示通りの開閉位置にする
	操作が重い (作動しない)	手感 聴音	配管から取外し、点検 バルブの交換

## 第V編 操作・運転

### 4. 異常発生時の処置

 <b>注意</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護眼鏡、作業手袋、安全靴等の保護具を身に付けて作業を実施してください。</li> <li>● 配管を流れる流体が毒性、可燃性あるいは腐食性である場合には、十分な安全対策を施して作業を実施してください。</li> <li>● 配管の増締めを行う場合は、必ず配管内の圧力を減圧するか、大気圧に戻して実施してください。</li> </ul>

## 第 VI 編 定期点検

## 第VI編 定期点検

### 1. 定期点検

- 1.1 バルブの定期点検は、配管に取付けられた状態で1年に1回程度実施してください。
- 1.2 バルブが円滑に機能を果たし、また保安上支障のない状態であることを確認してください。
- 1.3 点検項目及び点検方法は日常点検と同様です。第V編『運転中の日常点検』を参照ください。
- 1.4 日常点検を行わないバルブや日常開閉操作を行わないバルブも、定期点検時には点検を実施してください。(全てのバルブを点検してください。)
- 1.5 運転管理上重要なバルブ、流体が固着したり詰まりやすい配管系のバルブ、流体による腐食・摩耗が予測されるバルブは特によく点検を実施してください。







## 第VI編 定期点検

### 2. 保守検査

バルブが取付けられた配管設備が保安検査のため開放される場合は、必要に応じて弁座・外部漏れ検査、作動検査を実施してください。

#### 2.1 配管からの取外し、取付け時の注意事項

 <b>警告</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バルブを配管から取外す時は、配管内の流体を除去し、圧力を大気圧に戻してから実施してください。配管内に流体があったり、残圧がある状態でバルブを取外すと、残存流体が噴出し、人身事故を発生させる恐れがあります。</li> <li>● 毒性や可燃性流体に使用されるバルブを取外す際は、十分な安全対策を施して実施してください。 また、このバルブを保管・廃却される場合は、十分な安全対策を行い、未処理バルブが人に触れないよう注意してください。</li> <li>● バルブの取外し、取付け(吊り上げ・玉掛け)、運搬の際は、吊り荷の下に人が立ち入らない等安全に十分注意をして作業を行ってください。</li> </ul>

 <b>注意</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護眼鏡、作業手袋、安全靴等の保護具を身に付けて作業を実施してください。</li> <li>● バルブの取外し及び取付け作業場所は、作業に必要な足場を確保してください。</li> <li>● 取外す時も、取外す配管に近い側のスパナ掛け部を使用してください。</li> </ul>

#### 2.2 分解・組立

分解・組立作業は、『分解要領』『組立要領』を参照してください。

## 第VI編 定期点検

### 2.3 試験・検査



試験・検査については下記事項を確認してください。

#### 2.3.1 作動試験

- (1) レバーハンドルは操作が容易であり、各運動部にかじり、食いつきがなく適切に作動すること。
- (2) 弁棒と弁体の結合、連結は確実であり、緩みのないこと。
- (3) 全開の場合、弁体は流体の流れに平行であること。

#### 2.3.2 弁箱耐圧試験及び弁座漏れ試験

- (1) 弁箱耐圧試験及び弁座漏れ試験時の注意事項

 <b>注意</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護眼鏡、作業手袋、安全靴等の保護具を身に付けて作業を実施してください。</li> <li>● 弁箱耐圧試験及び弁座漏れ試験は安全に十分注意して実施してください。</li> </ul>

- (2) 弁箱耐圧試験及び弁座漏れ試験



点検を終了したバルブは、所定の水圧または空気圧により弁箱耐圧及び弁座漏れ試験を JIS B 2003 等の規格を参考に行い、所定の基準に合格することを確認してください。



## 第 VII 編 分解・組立

## 第Ⅶ編 分解・組立

### 1. 分解要領

#### 1.1 分解時の注意事項

 <b>警告</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バルブ内に残っている流体が体にかからないように、また引火等に十分注意をして実施してください。</li> </ul>

 <b>注意</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護眼鏡、作業手袋、安全靴等の保護具を身に付けて作業を実施してください。</li> <li>● 作業の際、手や指を挟まないように注意をして実施してください。</li> <li>● 質量の重いバルブを分解する際は、適正な吊り上げ器具等を使用して安全に作業を実施してください。</li> </ul>

#### 1.2 分解にあたって

1.2.1 分解は粉塵の少ない場所で行ってください。

1.2.2 弁箱のシール部、弁体のゴムシート及び配管接続部のねじ等を損傷させないでください。

## 第Ⅶ編 分解・組立

### 1.3 分解

1.3.1 弁体(4)を全開の位置にしてください。

1.3.2 弁箱(1)からセットボルト(132)を取外してください。

1.3.3 弁箱(1)からハンドル押さえナット(10)を取外してください。

1.3.4 弁箱(1)からレバーハンドル(9)、波座金(43B)、皿ばね(43A)、座金<sup>※</sup>(47)を取外してください。

1.3.5 弁箱(1)からパッキン押さえ(7)を緩めて取外してください。

1.3.6 弁箱(1)から弁棒(3)、Oリング(45)を取出してください。



1.3.7 弁箱(1)の中から弁体(4)を取出してください。

※ UVのみ適用

## 第Ⅶ編 分解・組立

### 2. 組立要領

#### 2.1 組立時の注意事項

 <b>注意</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護眼鏡、作業手袋、安全靴等の保護具を身に付けて作業を実施してください。</li> <li>● 引火等に十分注意をして実施してください。</li> <li>● 作業の際、手や指を挟まないように注意をして実施してください。</li> <li>● Oリングは必ず新品と交換してください。再使用しますと漏れ発生の原因となります。</li> <li>● 質量の重いバルブを組立する際は、適正な吊り上げ機具等を使用して安全に作業を実施してください。</li> </ul>

#### 2.2 組立にあたって

- 2.2.1 部品は必要な点検を行い、機能を満足しない場合はバルブを交換してください。
- 2.2.2 再使用の部品は必ず洗浄し、油、ゴミ等の汚れを完全に除去してください。
- 2.2.3 組立は粉塵の少ない場所で行ってください。
- 2.2.4 弁箱のシール部、弁体のゴムシート及び配管接続部のねじ等を損傷させないでください。
- 2.2.5 各ボルト・ナットの締め付けは、確実に行ってください。

## 第Ⅶ編 分解・組立

### 2.3 組立

2.3.1 弁箱(1)に弁体(4)を取付けてください。

2.3.2 弁箱(1)及び弁体(4)に弁棒(3)を取付けてください。  
この時、弁棒のつばが弁箱に当たるまで挿入してください。

2.3.3 弁棒(3)にOリング(45)を取付けてください。

2.3.4 弁箱(1)にパッキン押さえ(7)を挿入し、締付けてください。

2.3.5 弁棒(3)に皿ばね(43A)、波座金(43B)を組込んでください。

※ 2.3.6 弁箱(1)に座金(47)を組込んでください。

2.3.7 弁棒(3)にレバーハンドル(9)を組付けてください。

2.3.8 弁箱(1)にセットボルト(132)を組込んでください。

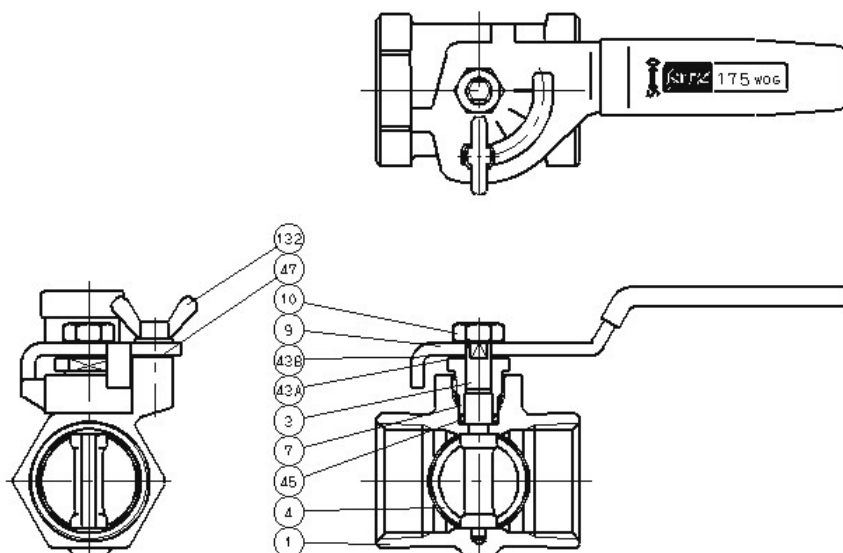
2.3.9 弁棒(3)にハンドル押さえナット(10)を組込み固定してください。

※ UVのみ適用

## 第Ⅶ編 分解・組立

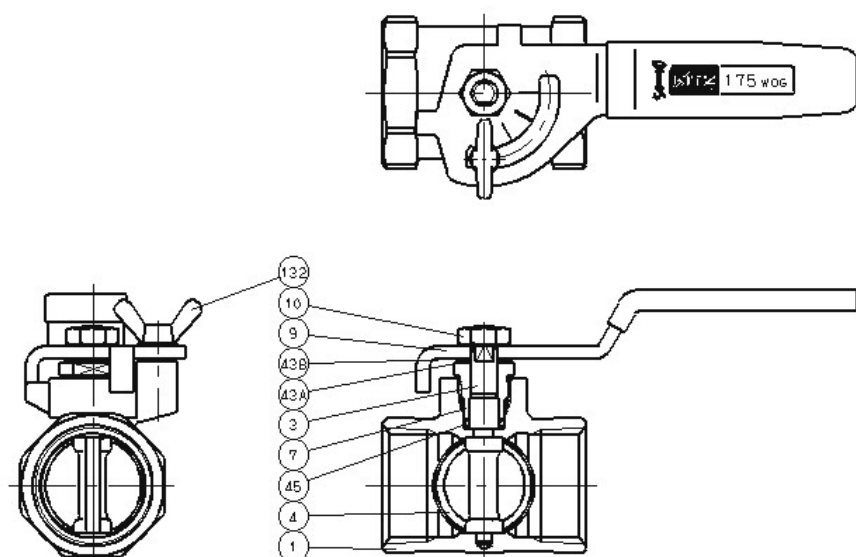
### 3. 構造図

#### 3.1 ステンレス鋼製ねじ込み形バタフライバルブ(製品記号:UV)



部番	部品名
1	弁箱
3	弁棒
4	弁体
7	パッキン押さえ
9	レバーハンドル
10	ハンドル押さえナット
43A	皿ばね
43B	波座金
45	Oリング
47	座金
132	セットボルト

#### 3.2 黄銅製ねじ込み形バタフライバルブ(製品記号:FV)



部番	部品名
1	弁箱
3	弁棒
4	弁体
7	パッキン押さえ
9	レバーハンドル
10	ハンドル押さえナット
43A	皿ばね
43B	波座金
45	Oリング
132	セットボルト

この図は代表的な構造を表しています。  
 分解・組立ての際は納入品図を参照の上、実施してください。